

グリーンニュース 第30号

発行年月日 平成 18年 12月 22日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



新疆ウイグル自治区（中国）カラクリ湖畔にて 標高は富士山と同じ

こどもエコクラブをご存じですか？

環境GS事業者認定300社を超える！（2ページ）

新疆ウイグル自治区の旅から（3ページ）

街の景観と街路樹

温暖化・エネルギー部会2007年に向けての取り組み（4ページ）

レジ袋の有料化を期待する・ファクターX（5ページ）

松井田協議会近年のあゆみ・南橘の自然観察と環境を守る会（6ページ）

利根沼田環境アドバイザーの活動について・きれいな地球を目指して（7ページ）

広報ア・ラ・カルト（8ページ）

こどもエコクラブをご存じですか？

こどもエコクラブは、こどもが誰でも参加できる環境活動クラブで、環境省が応援しています。登録には、幼児から高校生までのこども2人以上と、事務局との連絡役となるサポーターと呼ばれる大人が1人以上必要です。登録後には、自分たちでできる身近な環境活動(エコロジカルアクション)や、全国事務局から送られてくるエコクラブニュースに掲載されているエコロジカルトレーニングを実施します。

現在県では70クラブ1805人の子ども達が活躍しています。子ども達と楽しく環境活動を始めてみませんか。

1月27日には、県こどもエコクラブ交流会が実施されます。エコクラブをこれから始めてみようと思う方、ご興味のある方はぜひご覧ください。

日時 平成19年1月27日(土)午後1時から

場所 高崎市総合福祉センター(高崎市末広町115-1)

※登録申込は、市町村環境担当窓口又は、県庁環境政策課地球環境グループまでお願いします。



環境GS事業者認定300社を超える！

環境GS認定制度とは 県内の事業者が、温室効果ガスを持続的に削減するための計画を立て、実行、点検、見直しを行う体制「環境マネジメントシステム」を整備し、これを組織的に運用することを支援するものです。



環境GS(ぐんまスタンダード)認定制度の概要

§対象者 県内に事業所をおく事業者

§実施方法

- ①温室効果ガスを持続的に削減するための計画(Plan)を立て、必要事項を決定した後、県に申請を行います。
- ②計画に沿って実行(Do)します。(原則は4月～3月の1年間)
- ③年間終了後、点検(Check)を行います。
- ④点検結果を見直し(Action)、新たな基本方針を策定。県に報告し、次の計画を進めます。

9月の第1期認定には241事業者が認定されました。12月には第2期の認定が行われ、300社を超える勢いとなっています。申請にあたっての費用は一切かかりません。また、ISO14000などと比べて簡易な制度にしていますので、環境マネジメントシステムの入門編としてもご利用頂けます。

詳細については、地球環境グループ(TEL 027-226-2817)まで

ホームページ トップページ > 産業・労働 > 環境・廃棄物 > 環境・廃棄物関係の資格・試験・募集
> 【募集】県環境GS認定制度

2/9地球温暖化防止活動県民セミナーが開催されます。

※詳細については、後ほどご案内させていただきます。ぜひご参加ください。

新疆ウイグル自治区の旅から

今年7月4日より13日に亘り群馬県中高年山岳会の仲間5人と中国の西域である新疆ウイグル自治区、特にタクラマカン砂漠周辺を旅してきた。

かつてのシルクロードを含む砂と岩山の世界に足を踏み入れたわけだが、見るもの全てが驚きであり、こうした過酷な自然条件の中で逞しく生きる人間のすごさを改めて感じた。

劣悪な環境の中での生活では我々が言う環境問題への住民の意識は当然希薄と云っていいが国の取り組みにはその一端を垣間見ることが出来た。以下にその幾つかを紹介したい。



早朝の道路清掃

カシュガルでもホータンでも夕方バザールは勿論道路上に見られた多量のゴミの散乱は毎朝繰り広げられる箒による清掃のお陰で片づけられる。こうしたゴミをどう処理しているのかは判らないが日本の如く焼却施設による処理ではなく埋め立てているものと想われる。

オアシスの緑の管理

砂漠の地下には天山山脈や崑崙山脈の雪解け水が大量に蓄えられており、それらがときどき地表に顔を出したのがオアシスと考えられる。オアシスには白楊というポプラの一種が数多く植えられており強い日差しや風やそれに伴う砂塵から家々や田畑を守り、また建材や燃料として多岐に利用されている。したがって白楊の管理はよくなされている。

砂漠の緑化

日本がすっぽり入ってしまう程の広大なタクラマカン砂漠をニヤからクチャまで約700キロを縦断した。立派な舗装道路がまっすぐに伸びているその両側に砂漠に強い灌木と想われる植栽が延々と続く。その中にはパイプによる散水設備がこれも延々と続いていて中国の砂漠緑化に対する意気込みが感じられた。

太陽光発電と風力発電

砂漠の中には数十キロ間隔で通信施設があったが、そこには太陽光パネルが設置されており施設用電源を賄っていた。またトルファンからウルムチへの中で列車の窓から見た砂漠に林立する大規模な風力発電基地には目を奪われた。聞くと720基あるという。こうした最先端技術をいち早く取り入れていく中に、中国の建国への熱い思いを感じた。

以上中国最西域で見聞した環境関連の状況を報告したわけだが新しいものと古いものとが急速に入れ替わっていく姿に改めて中国の力強さを感じた。

(代表書記 新井 靖衛)

街の景観と街路樹

美しい街路樹の並木道は人の気持ちを和らげ、雑然とした街並みを統一し、人工物によって固められた都市に自然物である樹木を植えることで「心を癒す」のが目的である。街路樹の景観に果たす役割は大きく、都市においては「四季の移り変わり」を身近に感じさせる効果大きい。

しかし昨今この街路樹に異変が起きています。その一つが害虫の発生に対する対応です。農薬の散布が人体に与える影響が大きいとの意見で散布を控えるようになって今年、大量にアメリカシロヒトリが発生し、葉を全部食べ尽くされて大きく新聞で報道されました。また、都市の街路樹からムクドリを追い払ったら毛虫が大量に発生したり、自然のサイクルを人間のわがままでねじ曲げてしまうとひずみが連鎖反応で生じて来ているのですが自分の近くの事になると考えが違って来ようです。



秋になると落葉樹は葉が落ちるのが当たり前ですが、掃除をするのが大変だから木を切ってしまうとか(この季節になると必ずこの苦情が来るそうです)、虫が嫌だから切ってしまうとか、看板のじゃまになるから撤去してくれと申し込んで来る者が多くいるのも事実の様です。

秋も深まって来ると街路樹のイチョウ・ナンキンハゼ・アメリカフウ・トウカエデ等の紅葉を見ながら、この風情が分からなくなった人が多くなったと

嘆く今日この頃です。

(自然環境部会 宗 義彦)

温暖化・エネルギー部会 2007年に向けての取り組み

一時 140 円まで高騰したガソリン価格が、最近では 120 円台に下がり、安くなったような錯覚になる。でも一時的に下がったとしても、石油枯渇への不安や途上国の需要増加が見込まれる限り上昇傾向は続くと思う。原油値上がりの影響はガソリンばかりでなく、X'マスに食べるイチゴでさえ、石油がなくてはなりたないのだ。ただ石油依存から新エネルギーへの転換を考える意味では、いいチャンスかもしれない。しかしながら新エネルギーへの転換がうまくいかないと、出てくるのが原子力発電への期待感である。ヨーロッパでも脱原発への流れが進んでいたが、昨今の原油値上がりにより原発への見直しが始まっている。

温暖化・エネルギー部会としては、エネルギー全体の使用量からみれば、ほんの微々たる量かもしれないが、できることから取り組んでいきたいと思えます。部会として現在進めているテーマは、①菜の花プロジェクトの推進 ②小水力発電 等があります。菜の花プロジェクトは、ここ数年、県内でもかなり広まってきたところですが、バイオディーゼル(BDF)を製造するための量はまだまだ足りなく、菜の花の面積の拡大と、廃食油の回収をするために、県内各地に回収ルートを作れないか検討中です。小水力発電については、7月の見学会で理解者も増えてきたところですが、国内でも取り組みが始まったばかりということで、課題も多いところですが、急峻な水路が多い群馬は、立地条件としては最適であり、自然エネルギーに関心のある自治体などに呼びかけながら進めたいと思えます。(ただ今協力者募集中です)

○廃食油の回収ボックスを置いていただける、家庭、集会場、店舗など。(BDFに精製できる施設は玉村町にあります)

○回収した廃食油を、そのまま車に入れて走れるかの実験プロジェクト(SVO対応車)を構想中です。協力できる方を探しています。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

レジ袋の有料化を期待する

県のマイバックキャンペーンも今年で7年目を迎えた。

キャンペーン期間3ケ月中のレジ袋の削減推計量は、昨年(17年度)で初年度の倍の100万枚に増加しており、確実に「買い物袋の持参運動」は拡がりを見せている。しかしながら、期間中の県民一人当たりのレジ袋の削減枚数は約0.5枚で、通年で取組んだとしても2枚であり、年間国民一人当たり使用量約300枚からすると僅かである。レジ袋は家庭のごみの象徴的な存在であり、家庭のごみ削減の意識付けを図る意味からもレジ袋削減を加速する必要がある。レジ袋削減のもっとも有効な手段は”有料化”だが、今年改正された「改定包装容器リサイクル法」では”有料化”の法律化は見送られ、事業者に対する排出抑制への取組み、消費者への意識向上の取組み促進が盛り込まれた。

昨年、安中地区環境アドバイザー連絡会と環境ボランティア団体「板鼻グリーンネット」が、安中地区で約300人にレジ袋の有料化に関するアンケートを行ったが、「レジ袋を有料にした方がよい」とする人が52%で「有料にしない方がよい」の37%を大きく上回った。

男女別では女性が、また、年齢別では40歳以上の層が有料化をした方がよいとする率が高かった。レジ袋が有料化された場合、レジ袋がいくらだったら買い物袋を持参するか尋ねたところ、たとえ1円でも:30%、5円:26%と半数以上の人々がレジ袋が5円になったら買い物袋を持参すると答えた。

消費者もレジ袋の有料化を容認しており、有料化によりレジ袋の半減が見込めることから、レジ袋を有料化する勇氣あるスーパーの出現を期待するところである。

私達も県のマイバックキャンペーンをきっかけに一人でも多くの人々が、「買い物袋の持参」を習慣化するよう働きかけていきたい。

(ごみ部会 吉澤 敏則)

ファクターX

Factor・ファクターは「因子」、「要因」という意味の英語ですが、最近、環境改善の評価のモノサシ(算出基準)として「ファクターX」という表現で使われるのを見聞します。

式で表現すると: $\text{ファクターX} = \text{価値} \div \text{環境負荷}$ となります。

従って、環境負荷(資源消費)を下げつつ、価値(生活水準、製品機能等)を向上させればファクターXの「X」数値が大きくなります。環境負荷を1/2に改善し、価値が2倍となるものを開発すると「X」は4となるので、「ファクター4」の開発という環境評価になります。具体的な例として10年前の冷蔵庫と現在の冷蔵庫の環境評価をファクターで表すと:

	10年前の冷蔵庫	現在の冷蔵庫
容量(L)	150	300
消費電力(kWh/年)	1,000	200

価値(利用容量) $\Rightarrow 300 / 150 = 2$ (倍)

環境負荷(消費電力) $\Rightarrow 200 / 1000 = 0.2$ (倍)

ファクターX $\Rightarrow 2 \div 0.2 = 10$ よって「ファクター10」となり、10年前の冷蔵庫に比べ10倍改善されていることを示します。環境改善事業やグリーン購入等に当たり、ファクターを意識することが不可欠となる日が近いように思われます。



(広報部会 野村 武彦)

松井田協議会近年のあゆみ

会員の高齢化に伴い、数年前迄は独自の事業計画に基づき、環境講座・学習会・見学会等、実施したが事業の転換を余儀なく、数年前から公民館事業のなかで時間を貰い、高齢者学級や女性セミナー等で環境学習をさせて頂き、また相談を受け環境講座を3回開催して貰うことが出来た。また今年度も公民館事業での2回、生涯学習事業で1回、計3回の環境講座を持って貰うことが出来た。いずれも松井田協議会受講生優先との了解のもとで実施350名を超える参加者でした。今後も行政と足並みを揃える事が出来れば、アドバイザーの受講者のほか、行政関連の団体や組織にも呼び掛けをしてもらい、さらに一般にも呼び掛け、意識の高揚にもなり経済的にもプラスのなると思う。

また昨年から地球温暖化防止推進員の委嘱を受けた推進員とミニ学習会の掘り起こしに努め、すでに数回のミニ学習会を持ち、その都度20名前後の参加者がありました。その他に、行政主催の環境美化運動にも松井田協議会として参加、市側との協力もはかっている。

マイバッグキャンペーンについても毎年、食改推にも呼び掛けをして、一緒に行動を共にしている。松井田協議会では、スーパーの店頭啓発だけでなく、ノボリ旗を持って2班に分かれ、商店街の買い物客にも呼び掛



けもし、時には苦情の聞き役になることもあり、コミュニケーションの場にもなる。今年も上半期も終わり、下半期に向けて温暖化防止推進員と連携を取りながら、地域の団体や組織に働きかけ、環境の輪の広がりが地域の隅々まで行き渡る事を目標に努力を重ねていきたいと思っています。

(群馬県環境アドバイザー松井田協議会 滝澤 武夫)

南橋の自然観察と環境を守る会

この会は2001年5月に、環境アドバイザーに所属する約10名で設立しました。会の目的は「地域の自然観察や学習会などを通して地域の環境の実情を知り、環境を大切にする住民の自覚を促し、地域の環境を守る諸活動に取り組む」ことです。

会の名称は会の活動拠点(設立当初の会員住所)である南橋地区(前橋市の西北端にある橋山の南に位置する地域、かつての南橋村)に由来します。会員は約30名で年会費は1,000円です。現在の会員には南橋地区以外に住所のある人もいます。

活動は一般の参加者を対象にした年3回の自然観察会(1回は河川の清掃活動を含む)や学習会を実施してきました。今年度は桃ノ木川(アオハダトンボ、バイカモ)、赤城白川(魚類、外来植物、河川清掃)、橋山(照葉樹林、松枯れ、光周性)で実施しました。赤城白川には南橋エコクラブの子供たちの参加がありました。また会員のための研修会・観察会を年3回ほど行っています。今年度は大峰沼・古沼(モリアオガエル産卵、水生動物、植物)、桃ノ木川(支流、広瀬川合流点、水鳥)を実施し、1月末には桃ノ木川の冬鳥観察と新年会を兼ねて行う予定です。一般参加観察会の保険代を含む経費は県地域環境学習推進事業委託費を使用しています。

これら諸行事の記録を兼ねて年1回の「活動報告書」を作成しています。これは委託費に対する報告であり、記録と共に活動の総括でもあり次年度以降の活動に繋げる役割も持っています。

(南橋の自然観察と環境を守る会 片山 満秋)

利根沼田環境アドバイザーの活動について

今年の3月3日食用廃油からバイオディーゼル燃料をつくっているNPO法人環境リサイクルサポートに利根沼田環境アドバイザー連絡会で行ってきました。このNPO法人は、昨年暮に高崎から玉村町のガソリンスタンド跡に移設されたもので、高崎の工場には、昨年秋に沼田市生活学校連絡協議会で見学に伺っていました。なんとか食用廃油の回収システムをつくれぬか検討した結果、4月から利根沼田地域ボランティアセンター「ごったく広場」で始めることになり、その後回収拠点が増え、現在は市内4ヶ所で回収しています。

8月9日には、上原区民館で夏休み環境教室に31人の小学生が参加し、食用廃油からろうそくと石鹸を作り、ソーラークッカーを体験したり、温暖化の学習をしました。

10月16日には、一昨年に続き 環境に配慮した①山田りんご園、②藤森工業(株)昭和村工場、③奥利根アミニティパーク、④みなかみ町 犬のトイレのエコスポットツアーを行いました。

11月25日には、炭焼き、12月3日の「ごったくまつり」では、会員手づくりのソーラークッカーとバイオディーゼル燃料の展示と説明、活動報告を行い、来年2月には、自然エネルギーの学習会を予定しています。

利根沼田地区の環境アドバイザーは人数は少ないですが、創立当初からのメンバー、企業を退職された方、若いお母さんや元自治体職員など多様なメンバーが、楽しみながら活動を続けています。

(環境アドバイザー利根沼田連絡協議会 真下 淑恵)

きれいな地球を目指して

毎月第3木曜日の夜7時から定例会を持ち、2年目になります。

桐生地区として“ごみの減量化”に取り込んで行こうと決め、定例会で活発な意見交換をして進めています。4月と7月は桐生市生活環境課課長、6月はみどり市市民課課長と生活環境係長に出席して貰い意見を述べ合いました。

7月26日、市役所のバスを使い、地域の人達に呼びかけ、参加者27名で施設見学会を行いました。場所は桐生市清掃センター、森産業生ごみ処理の見学です。

桐生市清掃センターでは、始めに研修室でスライドを見ながら学習し、ごみクレーン操作室等、普段見ることのできない場所を見学出来、とても勉強になりました。

森産業の生ごみ処理は自家製の電動式生ごみ処理機で、近所の家庭から出る生ごみも受け入れているとのことでした。

9月は2日間、4会場でマイバッグキャンペーンを行いました。どの会場ともマイバッグを持って買物をする人の少ないのには驚きました。

アドバイザーとして、ごみ減量について「何が出来るか？」を考え、実りある定例会を行い、活動を進めてまいります。

(環境アドバイザー桐生地区会 斉藤 直枝)



- ※ [第8回 環境&森林フェスティバル](10/15開催)で、当協議会は会員35名の支援によりDRS(ごみゼロを目指す食器再使用システム)での発泡スチロール容器の追放、並びに環境にやさしいエネルギーとして菜種油しぼりの実演で、BDF(バイオディーゼル燃料)のPR、ソーラー・クッカーなどのデモを来場者に対し行いました。
- ※ 専門部会が新たにスタートして1年を経ました。その間、**温暖化・エネルギー部会**は約2ヶ月毎、部会を開催し、その結果を本号で示しています。**自然環境部会**では県環境・森林局緑づくり推進センター主催の森林保全や育樹の講習・実習等に参加しながら、活動テーマの絞込みで行動するアドバイザーの輪を拡げようとしています。**ごみ部会**は自治体毎のごみ処理データ比較表の纏めやレジ袋削減の取り組み実態調査を進めています。しかしながら、専門部会に出てくる人は限られ、登録者数に比し少ないのは残念なことです。
- ※ **新井榮一**顧問(前代表)が群馬県の**環境功労賞**を受賞されました。新井さんは当会の発足に携わり、初代の代表を務めていただきました。“おめでとうございます”
- ※ **活動組織の追加**:前号で地域での活動組織を一覧表で示しましたが下記を追加ください。早速、本号で組織化の経緯、活動状況を6ページで紹介しています。

地域ブロック (環境森林事務所)	地区 市・郡	組 織 名 称	代表/事務局	連 絡 先
高 崎	安 中	群馬県環境アドバイザー 一 松井田協議会	滝澤 武夫/ 磯貝 享子	027-393-1025

- ※ **高崎地区会**(杉本清司会長)は地域での環境保全活動が認められ、10/29高崎市より「たかさき地球市民環境賞」を受賞しました。11月からは群馬高専・小島教授、高崎商工会議所・異業種交流研に協力し、高崎公園の池の水質浄化試験に携わります。

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp>

に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記のE-MAIL アドレスに連絡ください。

nmrt@nifty.com

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。